

工学院大学 2025 年度大学外部評価委員会総括

2025 年 9 月 15 日

工学院大学外部評価委員会

I. 経緯と総評

1. 経緯

2025 年度大学外部評価は、事前に大学が作成した「2024 年度自己点検・評価報告書」（以下「報告書」と呼ぶ）に基づいて、6 名の外部評価委員が基準 4（教育課程・学修成果：点検・評価 7 項目）および基準 9（社会連携・社会貢献：点検評価 3 項目）に関する事前の書面評価を行った。その後、2025 年 8 月 21 日（木）15:30～17:00 工学院大学新宿キャンパスにおいて、外部評価委員の全員出席のもと、外部評価委員会が開催された。大学側の出席者は、今村保忠学長（冒頭挨拶）、渡部隆史副学長、学長室学長企画課（中村氏、細越氏、山口氏、加藤氏）である。冒頭、今村学長から外部評価委員会の意義および渡部副学長から大学における質保証の重要性や 7 年ごとの認証評価制度の概要の説明の後、委員から率直な意見をいただきたい旨が伝えられた。併せて、川上委員長から、今年度の外部評価委員会では、特に 10 基準のうち、基準 4 および基準 9 を中心に議論を行う旨を、最初に確認した。

本年度の外部評価委員会の総括は、各基準に対する点検・評価項目に沿った形式で、各委員から出された意見をもとに評価を取りまとめたものを総括とした。また、具体的な各委員からの質問についても併記した。

各委員からの質問について、オブザーバーとして出席された渡部副学長から、大学全体の観点から説明と回答をいただいている。今後の方向性や計画も含まれており、貴学での議論の「礎」の一助として、外部評価委員会の総括に含めて記載した。併せて参照願いたい。

2. 総評

貴学における基準 4 および基準 9 に関する外部評価委員会が出された意見では、極めて組織的に提案・改善が進められていることが確認された。ここでは、各基準でのさらなる独自の特色ある取り組みの伸長や今後の発展に期待することを述べたい。

基準 4 は、どの評価項目も高等教育機関として重要な部分であるのは当然であるが、全評価項目に対しての取り組みが確認された。特に評価項目④「学生の学修を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか」では、多くの具体的な対応が現在進行中である。貴学の特色を活かした「技術者を志す私たちの総合文化プロジェクト」の今後の発展も大いに期待される。学修成果の把握は、学習者のレベル問題への対応も含めて「学修ポートフォリオ」の活用に向けた教職員の協働による、さらなる貴学での対応をお願いしたい。

基準 9 は、2024 年から 2029 年度の「コンパス 2029」では、研究・社会貢献を軸に、教育・研究・社会貢献を単独としてとらえるのではなく、それぞれの連携によって包含する領域を目指し、また、社会連携・社会貢献方針を策定し、4 つの基本方針（・地球社会、地域

社会の問題解決への貢献、・科学技術の普及、・啓発活動、・次世代人材育成、・工科系モノづくり人材育成)に基づき、取り組んでいる。特にコンパス 2029 では、研究活動等の戦略的な発展が掲げられ、高く評価できる。ただし、具体的な「成果」については、コロナ禍の影響は残っているものの低調なものも散見された。急速な社会変化に伴うプログラムの「見直し」や負荷も考慮に入れながら、今後の「成果」に関する「底上げ」を期待したい。

II. 項目別評価

1. 基準 4

1.1 点検評価項目①：授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

・総括

2023 年度からはカリキュラム全体がポリシーに沿っているかという視点で課題を抽出し、改善方針を各学科が示す方式に改められ、その効果が出始めている。今後の各学科が示す改善方針について、学位授与方針（DP）に基づく大学としての改善に期待したい。

・委員からの質問と意見

- (1) 各方針の改善方法について、現在の状況を教えてほしい。
- (2) 毎年度、方針について点検・見直しをきちんと行っていることは高く評価できる。
- (3) 高等学校でも大学と同様に方針を定めて、毎年度見直しをしている。入学者受け入れ方針（AP）がきちんと定められているので、進路指導の際にも役立っている。
- (4) 大学後援会が作成している「後援会しおり」でも、これら方針についての記載があり、全国で開催している父母懇談会において、学長や副学長から丁寧な説明をいただいている。

・回答

- (1) 本学の建学の精神である『社会・産業と最先端の学問をつなぐ「工の精神」』をもととして、学位授与方針（DP）を定めている。また、DP に基づき、教育課程編成方針（CP）や入学者受け入れ方針（AP）も定めている。これらの方針は、教育評価改善委員会について毎年度点検をしている。

1.2 点検評価項目②：授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

・総括

精度の高いカリキュラム・アセスメントの検討が今後の課題の 1 つであるが、各種のデータに基づく IR を活用した包括的な改善が行われている。マクロ・ミドル・ミクロレベルでの改善の連関による成績評価の「公平性」についても大学として視野に入れている点は、高く評価できる。

・委員からの質問と意見

- (1) カリキュラム・アセスメントは非常に難しいのではないのか。
- (2) SSH の取り組みにおいて、高等学校でもアセスメントには取り組んでいるが、設計がとても難しい。

・回答

- (1) カリキュラム・アセスメントについては、個人情報取り扱いに配慮しつつ、シス

テム化された仕組みで行えるように検討している。誰がやっても同じ評価となるような仕組みが重要である。

1.3 点検評価項目③：教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

・総括

教育評価改善委員会において全専攻・全学科のカリキュラムや進級・卒業条件などの点検と改善が為された上で、時間割編成 WG にて次年度の時間割が編成される。時間割編成ワーキンググループでは、各学部学科と教育推進機構との調整を行うシステムを作り、教養教育と専門教育が適切に配置できる体制となっている。また、低学年からのキャリア形成（教育）の実施では、経済同友会が主催するインターンシップに学部 2 年生を派遣も実施されており、大学全体としての体制が整っている。今後は、さらなる地域、中小企業を含む産学連携の強化をお願いしたい。

・委員からの質問と意見

- (1) 時間割編成WGで適切に点検・見直しをされている。経済同友会主催のインターンシップには何名くらいの学生が参加しているのか？
- (2) インターンシップは、大企業、有名企業に偏りがちである。八王子市内の企業や中小企業のインターンシップにも参加していただきたい。また、1・2年生にもインターンシップに参加していただき、中小企業に関心を持っていただきたい。
- (3) カリキュラムに関して、産業界のニーズにあった最先端も技術等についても学べるようにしていただきたい。

・回答

- (1) 選抜している関係もあり、数名である。
- (2) 正規科目としている「学外研修」は3年次に配置している。なお、就職活動の早期化等もあり、1・2年時のインターンシップについても検討はしている。ただし、1年生に関しては企業に伺ってインターンシップをすることはまだ早いとの認識もある。
- (3) カリキュラムは4年単位で関連した内容にしないといけないため、それを加味した上で検討したい。先端技術を学ぶことも重要であるが、大学としては基礎科目を学生に習得してもらうことも重要だと考えている。

1.4 点検評価項目④：学生の学修を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

・総括

多くの具体的な対応が組織的に行われている（履修登録の上限、多様な授業形態に伴う合理的な時間割編成、シラバスの内容を授業アンケートにて確認、FD 研修会、期中のシラバス変更、外部アセスメントの活用、2024 年度から総合文化科目については抽選制度を廃止、授業形態に配慮した1授業あたりの学生数等）。学生に寄り添った独自の手法も

数多くあり、他大学の参考例ともなりうる取り組みである。オンデマンドを含むハード面は、大学として方向性も示されており、その整備が待たれるところである。

・委員からの質問と意見

(1) オンデマンド授業は学生にとっても時間の活用などもできて有効である。ただ、オンデマンド授業を受講する学内環境（Wi-Fi、学習スペース等）がまだ不十分であり、大学側に整備をお願いしたい。

・回答

(1) 随時整備を行っているが、まだ十分ではないとの認識は同じである。数年後にはより整備が進んでいるはずである。

1.5 点検評価項目⑤：成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

・総括

学部における卒業論文合否判定は、各学科の教室会議（判定会議）を経て、教授総会において学長が意見を聴いて承認する体制を整え、大学院修士課程、博士後期課程の早期修了制度の手続きの整備も行われ、適切性は十分に担保されていると判断する。ただし、オンデマンド授業や合同定期試験に関する成績評価および単位認定は、履修者数を含めて継続的な検討をお願いしたい。

・委員からの質問と意見

(1) 合同定期試験で実施する試験問題は、どのように作成しているのか？

・回答

(1) 合同定期試験は共通基礎科目が対象であるが、科目ごとに1人の教員が作成している。また、試験問題のレベルに合わせて、合格ラインについても担当教員間で決めている。

1.6 点検評価項目⑥：学位授与方針に明示した学生の学修成果を適切に把握及び評価しているか。

・総括

「学生の学修がより加速すること及び学修の成果を実感できること」を念頭に学生個々の学修目標、学修成果を記録できるスタイルのポートフォリオを作成することで決定しており、試行が始まっている。引き続き、試行的に開始された内容の進捗状況とクォーター制度を活用した「学修が加速していない学生へのケア体制の方向性と対応」の実態把握および卒業時の最終的な学修成果の提示、すなわちディプロマサプリメントの導入に関するビジョンについて注視したい。

・委員からの質問と意見

(1) 「学生の学修がより加速すること及び学修の成果を実感できること」との記載があった。成績が上位の学生については、問題は無いと思うが、成績が下位の学生に対しては、どのようなケアをしているのか？

・回答

- (1)入学直後に習熟度調査を実施し、結果が芳しくない学生に対しては、学習支援センターを積極的に活用するように指導している。また、クォーター制を導入しているので、理解が不足している科目について、再履修がしやすい機会を確保している。

1.7 点検評価項目⑦：教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

・総括

「工学院大学ベストティーチャー」として選出・表彰し、その授業手法を参考とすべく、FD 研修会として全教員を対象に模範授業を実施しており、その継続的な取り組みは、高く評価される。この点を踏まえて、模範授業を踏まえた授業改善の実態や満足度の向上と学生生活アンケートから見えた生活面の課題・問題点への丁寧な対応をお願いしたい。

・委員からの質問と意見

- (1) 学生生活アンケートについて、内容を事前に確認させてもらったが、かなり詳細な検討がされており、また継続的にやっているのは高く評価できる。ベストティーチャー制度（授業手法についての FD 研修会含む）について、専任教員だけでなく、非常勤教員も対象にしていることは評価できる。
- (2) 「学長からの改善指示」にも記載があるが、「学生生活アンケートの公開」については、開かれた大学という趣旨からも早めに対応いただきたい。また、公開する際は、学生の意見に対して、大学はどのような対応を取ったのかも併せて記載していただきたい。

・回答

特になし。

1.8 その他（点検・評価項目①～⑦以外）

・総括

貴学の学位授与方針(DP)に基づく数多くの取り組みは、「技術者の倫理」のみならず、実験・実習系のグループ・ワークや学生プロジェクトの成果から得られており、長所・特色の1つとして今後の伸長に期待したい。

・委員からの質問と意見

- (1) DP に「豊かな人間性を備え、相手を理解・尊重しつつ、チームの成果に貢献することができる」「高い倫理観を持って自らの社会的責任を果たすことができる」とある。大学として、これらを学生が身につけるような仕組みを整えているのか？

・回答

- (1)「高い倫理観」については、「技術者の倫理」という必修科目を提供している。「相手
を理解・尊重しつつ、チームの成果に貢献」については、実験・実習系授業は全てグ
ループでの実施となっており、実験・実習を通して身につけている。また、本学は学
生プロジェクト（ソーラーカー、ロボコン、鳥人間コンテスト等の出場、優勝を目指
す取り組み）も積極的にサポートしており、これらの活動を通じて、学生は身につけ
ていると考えている。

2. 基準 9

2.1 点検評価項目①：大学の教育研究成果を適切に社会に還元するための社会連携・社会貢 献に関する方針を明示しているか。

・総括

2024 年からの中期計画「コンパス 2029」では、「コンパス 2023」で掲げてきた項目を
推進しつつ、研究・社会貢献を軸に、教育・研究・社会貢献を単独としてとらえるのでは
なく、それぞれの連携によって包含する領域を目指している。特に「コンパス 2029」で
は、研究活動等の戦略的な発展として 3 項目が掲げられ、積極的なアウトリーチ活動に
よる社会貢献及び地域貢献に着目している点は、今後の発展を見据えて評価に値する。た
だし、報告書中の一部の数値目標は、旧体制のままの部分もあり、併せて、管理・運営に
携わる国際化の職員の SD についても、さらなる検討をお願いしたい。

・委員からの質問と意見

- (1) 積極的にアウトリーチにも取り組んでいると思われる。社会連携・社会貢献に関する
方針は、非常に分かりやすい。国際化の方針について、「2020 年度末における数値目
標」となっているのはどうしてなのか？

・回答

- (1) コロナ禍で国際交流がストップして、数値目標もそのままとなってしまう。現
在は国際交流も再び活発化しているので、数値目標も見直しを図りたい。

2.2 点検評価項目②：社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関 する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。

・総括

「地球社会・地域社会の問題解決」への貢献は、八王子商工会議所と共同で、教員や学
生が市内中小企業に出向いて講義や技術相談を行う「出前研究室」を 2018 年度から開始
している。科学技術の普及・啓発活動については、「イノベーション・ジャパン～大学見
本市&ビジネスマッチング～」に出展し、特許出願が必須となった現在も出典を続けてい
る点は高く評価できる。大学間連携も学術・教育交流など、多角的に行っている。次世代
人材の育成については、スーパーサイエンススクール (SSH) などの探求活動支援を通じ
て、高大連携事業を積極的に展開している。社会連携・社会貢献に関する活動による教育

研究活動として、産学連携プログラム（ISDC プログラム）が実施されている。多くのメリットがあげられているが、参画企業の偏りが見受けられる。継続的にさくらサイエンスプログラム、海外協定校との相互交流（キャンパス・アテンディング・プログラム：CAP）も実施されている。短期留学生特別研究生制度もあり、フランス ESIEE は、2024 年度 6 名の実績がある。海外協定校への出張講義も行われているが、近年は台湾の実績が多い。これだけの取り組みを一部、コロナ禍の影響もあり不定期・未実施な取り組みもあるが、特質すべき点であろう。内容的には参加人数、大学間連携の効果、参画企業や地域との取り組みに対する温度差等はあるが、「学生」に軸足をおいた取り組みとして評価したい。

・委員からの質問と意見

- (1) 八王子商工会議所と共同で実施している「出前研究室」について、この数年間は出張の実施までは至っていないのはなぜか。
- (2) 八王子市には 21 の大学があるが、商工会議所としては、大学と企業との間を取り持ちたい。大学に対して敷居が高いと感じているので、気軽に技術相談等ができる仕組みとして「出前研究室」を設けた。今後は、大学に企業が出向いて相談を受ける形も検討し、共同研究に繋がればいいと考えているが、大学教員だけでなく、学生にも企業の現状を知ってもらうことは、教育の 1 つになると思う。
- (3) イノベーション・ジャパンについては、出展要件が厳しくなるなか、多くの研究シーズを継続的に出展しているのは高く評価できる。
- (4) 高大連携の各種取り組みは、高校側としても非常に助かっている。次世代の人材育成という面からも良い仕組みである。高大連携イベントには、教員だけでなく、大学院生も参加して、高校生の課題整理等のアドバイスをしてくれるのも良い取り組みである。
- (5) ISDC プログラムの参加企業が特定の企業になっているので、可能なら今後は広げられた方が良くと思う。

・回答

- (1) 大学としては、八王子キャンパスに産学共同研究センターという施設があるので、企業等との連携を図ることも視野に入れているが、必ずしもうまく進んでいない面もある。

2.3 点検評価項目③：社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか？

・総括

産学官連携ポリシーおよび工学院大学産学官連携規程に基づき、適切に次年度の活動に向けての改善が図られている。その内容は、科学教育センター運営委員会でも検討され、内部質保証委員会に報告もされている。社会貢献・社会貢献に大学として組織的に真摯に取り組んでいる結果の表れであろう。外部評価委員会での意見にも対応しており、今後の

具体的な成果に期待したい。

・委員からの質問と意見

特になし

・回答

特になし

Ⅲ 「全体振り返り」での委員からの主な意見

- (1) 大学進学後に、マスター、ドクターへ進学するなど、その後のロードマップが見えるようにしていただければ大学の魅力が増すと思う。探求成果等に取り組んでいる高校生に対して、現在の取り組みが、その後の将来にどのように繋がるのかが分かると良いのではと思う。
- (2) 点検・評価報告書を読んで、様々な取り組みをしているのが良く分かった。ただ、ホームページを見てもそれらの取り組みが良く分からない。せっかく良い取り組みをしているので、今後は、ホームページ等での情報発信を積極的に行っていただきたい。
- (3) 工学院大学と新宿区は包括連携協定を結んでおり、防災関係を始めに、様々な場面で協力をいただいている、今後も多くの場面で協力をいただきたい。
- (4) 自分の大学でも知らないことがたくさんあり、大学の取り組み等が分かって、貴重な経行えればと思った。
- (5) 大学後援会として日頃から大学のお世話になっているが、保護者が知らない面でも様々な取り組みをしているのが良く分かった。後援会東京支部のイベントで、学生プロジェクトであるSCPに参加いただいた。SCPは、地域のイベント等にも参加しているようだが、今後は、教員委員会やPTA等の連携を模索しても良いのではと思った。
- (6) 今回取り上げた基準ではないが、内部質保証に関して、点検・評価報告書を確認したが、2017年度から組織的対応をしているのが良く分かった。大学側もIRについて触れていたが、内部質保証の取り組みについては、エビデンスが重要であるので、今後も積極的に取り組んでいただきたい。

Ⅳ 外部評価委員会結果

- (1) 基準4の報告書内容および外部評価委員会での報告および質疑応答を踏まえて、点検評価項目①～⑦について全ての要件を満たしていることを確認した。
- (2) 基準9の報告書内容および外部評価委員会での報告および質疑応答を踏まえて、点検評価項目①～③について全ての要件を満たしていることを確認した。

以上

文責 川上 忠重